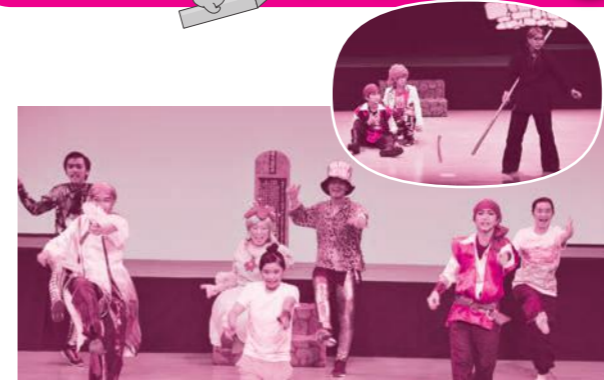


学生による演劇



町内学生がプロデュースした創作演劇「さわりんと運玉義留」が、3月11日にさわふじ未来ホールでありました。貧困に苦しむ人々を救うため悲しい最期を遂げた運玉義留を西原の英雄・誇りとして語り継ぐ物語です。

放課後や週末を活用して半年間の練習を重ねてきた小・中・高校生たちが、さわりんや運玉義留、金丸などの配役を見事に演じ、また繊細かつダイナミックなダンスに魅了された観衆は、終演後に総立ちで拍手を送っていました。

オリンピック選手の陸上教室



陸上10種競技の日本記録保持者で、リオ五輪の日本代表でもある右代啓祐さんによる陸上教室が、3月8日に西原町民陸上競技場で開かれました。テレビでしか見たことがない憧れの右代選手からの直接指導とあって、参加者は興奮しながらも、できるだけ多くを学ぼうと真剣に取り組んでいました。

等間隔に並べられたバーをリズムよく飛び越えることや、座った状態から手や足、グラウンドを数回叩いてから5mを走る速さを競うなど、楽しみながら学べるものでした。

さわりん商品の続々誕生



観光キャラクター「さわりん」をデザインに取り入れた商品紹介が、西原町役場で行われました。町内企業が開発した商品はクッキー、プリン、キムチ、納豆、泡盛など多種にわたり、すでに販売されているもの、これから店頭にも並ぶもの、産業まつりで提供されたものもありました。

小橋川副町長は「多くの商品でさわりんを活用していたら、ありがたいです」と述べ、西原町のアピールにつながることを期待します」と述べました。

※表紙で商品を紹介しています。

キリ学との連携を強化



西原町（上間町長）と沖縄キリシタン大学・同短期大学（友利廣学長）との包括連携協力に関する協定締結式が、3月8日に西原町役場で行われました。両者はこれまででも理科教育支援事業、学術研究の成果や知識の提供などの連携をしてきました。今後は、大型MICE施設に関連する人材育成（語学研修）や児童生徒の学習支援への学生ボランティア派遣などで連携強化を図ります。

上間町長は「MICE建設に向けた受入体制の整備などの連携強化により、西原町のさらなる発展につなげたい」と述べました。

たすきをつなぎ 防火をアピール



防火思想の普及啓発や住民の火災予防意識の高揚などを目的として、第26回防火アピール駅伝が3月3日に東部消防管内（西原町、与那原町、南風原町）で行われました。主催した東部消防組合消防団の呉屋博之団長は「火の用心を訴え、火災を未然に防ぎ、安心安全なまちづくりにつなげましょう」と述べました。

3町の消防団員と消防隊員が火災警報器の設置など、火災予防の大切さをアピールしました。

お宝再発見!!

みなさまのお家や倉庫に眠っている宝物はありませんか。年末の大掃除などで、今は使っていない道具や、行き先に困っている古い品物など出てきませんか。

昔の着物や皿などの生活用品、鍬や脱穀機などの農具は、当時の人々の暮らしや文化を知る上で

貴重な資料です。今年度も町民のみなさまから多くの寄贈をいただきました。ここではほんの一部ですが、寄贈していただいたものを紹介します。

寄贈の受付は随時行っていますので、お気軽に文化財係までご連絡ください。

（※一度、担当者にて実物の状態などを確認させていただきます）



【お問い合わせ】 教育部生涯学習課 文化財係 ☎九四四一四九九八

文化財コラム

石垣の健康診断

西原町民のみなさま、健康診断を受けていますか。

現在、本町では内間御殿の中心的な建物である東殿を囲う石垣の健康診断を行っています。

この石垣は、歴史資料から、約二八〇年前に積まれたものとわかります。ただし、その長い年月の間で石垣が傾いたり、石と石の間に隙間ができたり、石が外側に飛び出たりと、さまざまな異変が起きています。

そこで、現在の石垣全体の健康状態を知るために、石垣を形づくる石を一つ一つ観察し、石に起きています異変や石の位置などを記録するカルテ（記録カード）を作っています。

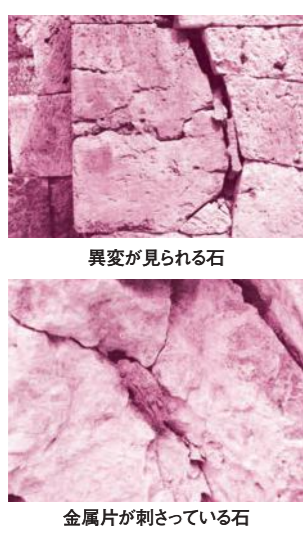
石垣カルテを作る主な利点は、どの石が今後崩れる危険性があるかを把握できる点です。また、地震や台風などによって、石垣が崩れてしまった場合でも、カルテの記録から、元の位置に戻すことが可能になる利点もあります。

ところで、実際に石垣に使われている石をよく見てみると、サンゴの化石や穴ぼこ（元からあいていた穴を含む）、ひび割れ、欠けている箇所、ノミ（石などを削る道具）などの痕跡が確認できます。

ちなみに、穴があいている石のいくつかは、穴の奥に金属片が刺さっているものが確認されています。これは沖縄戦の影響でできた弾痕の跡と考えられます。

今回、このように一つ一つの石を調べていくなかで、石そのものの情報や健康状態を把握するだけでなく、台風・地震などの自然災害や戦災を乗り越えてきた歴史の一端を垣間見ることができました。

今後も、約三五〇年の歴史がある内間御殿を調べ、整備するまでには多くの時間が必要となりますが、地域のみなさまにはご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



【お問い合わせ】 教育部生涯学習課 文化財係 ☎九四四一四九九八